

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 事業提案書

【申請団体】

申請団体名	NPO 法人 中之作プロジェクト
(協議体の場合のみ) 代表団体名	
(申請団体の) 代表者の職・氏名	
協議体構成団体①	
協議体構成団体②	
協議体構成団体③	
協議体構成団体④	

【団体情報】

団体ホームページ	http://toyorder.pl.bindsite.jp/nakanosaku/
又は公開予定日	

※情報公開を行っておらず、かつ公開する見込みのない団体については応募できません。

1 事業名

中之作地域 町並み保存活動

2 事業の目的及び地域課題（200字以内）

いわき市中之作は、東日本大震災と津波による被害を受けましたが、地形など様々な要因により奇跡的に多くの建物が残された港町です。しかし、少子化・高齢化・核家族化・過疎化などの社会問題により、港町の風景をつくる貴重な建物は修復されずに次々と壊されてしまいました。

震災に耐えた貴重な港町の風景を次の世代に伝えるため、地域コミュニティーの再構築と、地域に若い移住者を増やす取り組みが地域課題です。

3 事業の必要性（200字以内）

震災により中之作地区・折戸地区は300世帯に減少しており、入居者のいない住宅も増加傾向です。このままでは近い将来に確実に空き家問題が発生します。また、高齢者の住宅を狙った空き巣の件数も増加しており、防犯の面でも空き家の活用は効果が期待できます。

この海辺の町に住みたい若者は多数存在しますが、空き家を活用せずに放置する方に賃貸の意思がありません。住民の意識改革から始めなければならない状況です。

4 事業内容

【実施取組1】

空き家調査

主な活動地域：中之作地区・折戸地区

実施期間：H27/8月～H27/12月末

【取組内容】（100字以内）

中之作地区、折戸地区の全戸について、空き家の確認、空き家所有者の連絡先調査、独居老人世帯などの十年以内に空き家になる可能性の高い家を調査し、色分けした地図を作成します。詳細は報告書にまとめます。

【実施取組2】

貴重な建物の登録制度設立

主な活動地域：中之作地区・折戸地区

実施期間：H27/10月～H28/1月末

【取組内容】（100字以内）

中之作地区、折戸地区の貴重な建物を選び、中之作景観賞として登録・表彰します。審査会と同時に、中之作の景観についての講演会も開催します。初年度は5件程度の登録を目指しています。

【実施取組3】

港町の食文化を伝える料理教室

主な活動地域：中之作地区・折戸地区

実施期間：H27/7月～H28/2月末

【取組内容】（100字以内）

カツオやサンマなど使った地域の食文化を婦人会などの協力で次の世代に伝える料理教室を複数回開催します。料理試食時のご飯・年末の餅つき大会・雛祭りの赤飯づくりなどは、昨年完成したカマド小屋を利用します。

5 事業効果（各200字以内）

【1】空き家調査の結果を色分けした地図にまとめることで、中之作の住民が空き家問題に対し当事者意識を持って関わるすることができます。

【2】貴重な建物の登録は、港町の建築文化を自覚するきっかけとなり、これから新築される住宅にも景観保護の意識が波及する可能性を含みます。

【3】定期的に行う料理教室により、震災被害の建物解体で分断された地域コミュニティを再構築します。参加した方に港町の魅力を伝えます。

【情報発信力】

募集範囲：主にいわき市内にお住まいの方

事業に関わる人数：実施者 各10人程度 参加者 合計200人程度

実施回数：4回（カツオ料理・サンマ料理・餅つき・赤飯づくり）

周知方法：毎月発行するニュースレター「清航館通信」の配布（毎月千枚印刷）、ホームページ・Facebookの活用、新聞・ラジオなどは、これまでのイベントでも活用

6 実施団体の運営力強化（各200字以内）

【人材育成の観点】

空き家調査と貴重な建物審査は、外部の専門家の協力を得て実施します。港町の建物の特徴や、建物保存の手法についてスタッフ向けの勉強会も開催します。

【ネットワーク形成の観点】

空き家調査と貴重な建物審査には、東北大学の松本行真准教授と、福島高専の学生の協力を得ます。地元のまちづくり協議会との連携にも力を入れます。

料理教室は地元の婦人会や漁連の協力を得ます。餅つき用のもち米は、地域の学童保育の子どもたちと一緒に、手植えなど機械を使わずに生産します。

7 事業スケジュール（月ごと、箇条書き）

月	実施取組 1	実施取組 2
6月		
7月		
8月	空き家調査（中之作地区）	
9月	空き家調査（折戸地区）	
10月	空き家調査	
11月	調査データ整理	中之作景観賞募集要項作成
12月	調査データ整理	中之作景観賞募集
1月	調査データ整理	中之作景観賞審査会
2月	調査データ整理・先進地視察旅行	受賞者発表・表彰式・講演会
3月	空き家調査報告書作成・印刷	

月	実施取組 3	
6月		
7月		
8月		
9月	サンマ料理教室告知・チラシ印刷	
10月	サンマ料理教室開催	
11月	餅つき大会告知・チラシ印刷	
12月	餅つき大会開催	
1月	雛まつり告知・チラシ印刷	
2月	雛まつり開催	
3月		

8 事業の実現性について（200字以内）

震災により解体が決まっていた中之作の古民家を買取り、住民参加で修復しました。また、再生した古民家を使い和楽器のミニライブや料理教室など様々なイベントに活用してきた実績もあります。

空き家の調査は、所有者のプライバシーに関わる部分が多く、実現が難しい部分が多いのですが、これまで地域に深く関わることを目標に取り組んできましたので、理解が得られやすいと思います。

9 事業終了後の展開・発展性（200字以内）

空き家調査の結果をもとに、地域の空き家バンクを設立し、中之作への居住希望者とのマッチングを行います。

保存のために修復が必要な建物は、古民家修復のノウハウを生かして、住民参加による工事も取り入れます。修復費用は、家賃に上乗せするなどの方法を検討しています。

若い世代が住んでみたい町を目指し、魅力的な港町風景づくりにつながる景観条例の制定なども視野に入れて活動を続けます。

10 事業の先進性・普及性（200字以内）

空き家状況の調査結果を地図にプロットすることで、高齢化が進む地域で起こりつつある問題を明確にすることが予想されます。

例えば、空き家を活用するための具体的な手法などは、他の地域でも応用可能だと考えます。10年以内に空き家になる可能性が高い建物を事前にリスト化することで、建物が無駄に放置されずに活用することも可能となりますが、そのためには地域とのコミュニティや信頼関係が重要になります。

11 特記事項（アピールポイントなど）（200字以内）

中之作で修復した古民家は「清航館」と名付けられ、毎月様々なイベントをNPOの会員が運営しています。清航館は、レンタルスペースとしての利用も可能で、徐々に稼働率が上がってきています。

我々の取り組みを知った地元の方から、一軒の空き家を貸していただけることになっており、空き家再生のモデルケースとして次年度から修復工事を行う予定です。

12 その他の助成金について

① 当該申請事業について、他の助成金も受けている。 答えが「はい」の場合のみ②へ	いいえ
② 他の助成金を受けているが、当該申請事業と明確に区別することができる。	はい/いいえ

※ 他の助成金を受けた事業と明確に区別できない場合は応募できません。

第3号様式（第4条関係）

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 収支予算書

申請者名 NPO 法人 中之作プロジェクト 坂本政男

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成 27 年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	2,070	【取組 1】空家調査学生アルバイト 6千円×40人 240千円 【取組 1】調査・報告書作成スタッフ（専門家：一級建築士） 15千円×延べ40日 600千円 【取組 3】交通整理学生アルバイト 5千円×6人 30千円 【取組 1～3】有給専従パート 150千円×8ヶ月 1,200千円
報償費	92	【取組 2】審査・講演費 28千円×2人 56千円 【取組 3】ワークショップ講師謝礼 9千円×4人 36千円 （カツオ解体・サンマ料理・餅つき 各2人）
旅費	120	【取組 1・2】講師交通費 20千円×6回 120千円
需用費 a1+b1+c1	660	
消耗品費 a1	430	【取組 2】賞状・賞品・プレートなど（5件） 150千円 【取組 3】サンマ料理教室 食材 50千円 【取組 3】餅つき大会 食材・道具レンタル 130千円 【取組 3】もち米づくり 道具レンタル 100千円
燃料費 b1		
印刷製本費 c1	230	【取組 1】空家調査報告書印刷製本 50冊 30千円 【取組 3】イベントチラシデザイン 10千円×4回 40千円 【取組 3】チラシ印刷 各千枚 10千円×4回 40千円 【取組 3】ポスター印刷（餅つき・雛まつり） 120千円
役務費 a2+b2+c2	100	
通信運搬費 a2	40	イベント案内郵送料 40千円
手数料 b2		
保険料 c2	60	障害保険加入料 100円×600人
使用料及び賃借料	100	【取組 3】もち米田んぼ使用料 100千円
委託料		
A. 支出合計	3,142	千円未満切捨

【自己資金の部】※自己資金は支出合計の2割以上が必要です。

（単位：千円）

区 分	平成 年度 予 算 額	明 細
自己資金（負担者名）	229	*
寄付金等	229	寄付収入・NPO会費収入（昨年度実績 1,920 千円）
その他収入	400	
事業収入	400	雑まつりイベント期間施設入場料 入場者 4,000 人×100 円 400 千円
B. 自己資金合計	629	千円未満切捨

【補助金交付申請額】 2,513 千円（A. 支出合計－B. 自己資金合計）

- 注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。
- 注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。
- 注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の用途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、用途の区分が分かる資料を添付すること。